

# 犯罪不安を規定する要因に関する検討

— 被害の影響の推定に着目して —

○柴田侑秀<sup>1</sup>・森永康子<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>広島大学教育学部 <sup>2</sup>広島大学大学院教育学研究科)

## 目的

犯罪不安を規定する要因として主に検討されてきたものに、リスク知覚がある。リスク知覚とは“犯罪被害に遭う主観的確率”を意味する(島田ら, 2004)。

しかし、このリスク知覚の定義は犯罪不安を規定する大きな要因の1つを見落としていると考える。その要因とは、その犯罪被害から受ける影響の大きさである。実際に、Warr(1987) や Jackson(2015) は被害の影響の推定が犯罪不安に影響を与えることを示している。

そこで、本研究は犯罪被害の影響の推定が犯罪不安を規定しているという仮説をたて、このことを明らかにすることを目的とする。

また、荒井ら(2010) は犯罪不安やリスク知覚に個人的水準と社会的水準があることを指摘している。本研究では、個人的水準の犯罪不安は個人的水準のリスク知覚に、社会的水準の犯罪不安は社会的水準のリスク知覚に導かれると仮説をたて、このことを明らかにすることも目的とした。

加えて、Jackson(2015) に基づき犯罪被害を回避することができる可能性に対する認識と犯罪不安との関連も尋ねた。調査で取り上げる罪種は島田ら(2004) に基づき、身体犯として暴行を、財産犯として窃盗を選んだ。

## 方法

2016年3月にインターネット上で調査を実施した。回答者は270名。そのうち、回答への同意を得られなかった9名を除いた261名(男性131名、女性130名。年齢: M=40.02, SD=10.82)を分析した。

調査では、個人的/社会的水準の犯罪不安、被害の回避可能性、個人的水準のリスク知覚として被害に遭う主観的確率の推定と被害の影響の大きさの推定、社会的水準のリスク知覚として治安悪化認知を暴行と窃盗についてそれぞれ尋ねた。また、居住地域における無秩序性の認識も尋ねた。

## 結果

罪種ごとに構造方程式モデリングによる分析を行った。その結果を Figure 1, 2 に示す。

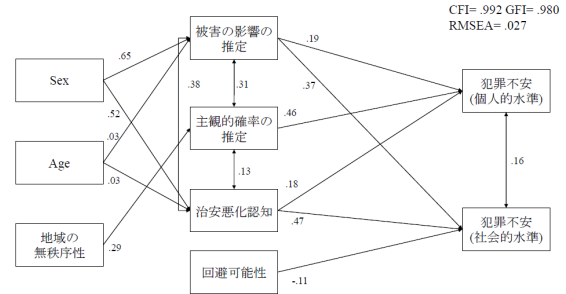


Figure 1. 犯罪不安に影響する要因(暴行)

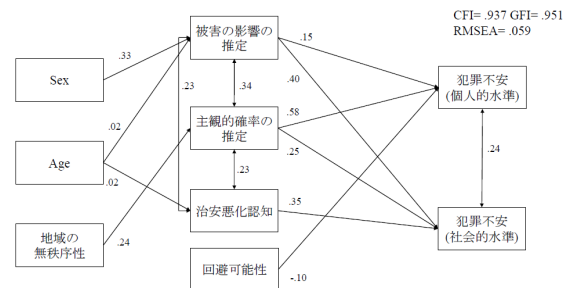


Figure 2. 犯罪不安に影響する要因(窃盗) ※係数が有意なパスのみ図示

Figure 1, 2 から、被害の影響の推定が個人的水準の犯罪不安に影響を与えていることと、社会的水準のリスク知覚が社会的水準の犯罪不安に影響を与えていることも明らかになった。

## 考察

Figure 1, 2 から、被害の影響の推定が個人的水準の犯罪不安を規定することが明らかになった。ただし、その効果量は主観的確率の推定よりも小さいものだった。

また、社会的水準のリスク知覚が社会的水準の犯罪不安を規定することも明らかになった。一方で、被害の推定が社会的水準の犯罪不安にも影響していることがわかった。

このことから、被害の影響の推定は社会全体で起きている犯罪の「凶悪化」を連想させ、それが社会的水準の犯罪不安を高めているのではないかと考えられる。ただし、本研究では凶悪化の認知を直接尋ねてはいないので、今後の研究でこの関係をより明確にする必要がある。

加えて、暴行と窃盗で描かれるパス図に違いがあったことが明らかになったが、被害の推定や治安悪化認知の影響は罪種にかかわらずみられた。